

4か国高校生の比較研究調査を読み解く

青少年教育研究センター長・千葉敬愛短期大学学長

明石 要一

1 野外体験活動では日本の高校生の体験者は半数に止まる。

日本は韓国と同じで、この一年間キャンプなどのアウトドア活動を「したことがない」者が5割と半数もいる。ちなみに、未体験者は中国は29%、アメリカは37%にとどまる。それに対して、日本の高校生は「農業体験や虫を捕ったりペットを育てる」体験は比較的多い。身近な生活体験は行っている。

また「お墓参り」は別として、「弱い者いじめやけんかの仲裁・注意」、「身体の不自由な人、お年寄りなどの手助け」の生活体験は他の国に比べて少ない。正義感や思いやりの気持ちが弱い。

2 インターネットの利用はアメリカがダントツ

「一日4時間以上」インターネットを利用している割合はアメリカが32.6%でダントツ。次に日本(12.2%)、中国(10.8%)、韓国(7.7%)が続く。だからであろうか、ネット上だけの友人が一番多いのもアメリカである。「50人以上」が2割を超えている。日本、中国は1割である。そして、日本、アメリカ、中国は「ネット上での友人といろいろなものを共有できて楽しい」と思っている。そして、利用機能では4か国の差がなく、共に「ラインなどのSNS」と「音楽の試聴」「動画を見る」がベストスリーである。

また、インターネット依存はやはりアメリカ(39.1%)がトップ。そして日本(36.9%)、中国(33.5%)と続き、韓国(18.6%)が一番低い。しかし、ネット依存は高いものの、アメリカと日本の高校生の9割は「ネット上のつき合いは危険でトラブルに巻き込まれやすい」と思っている。

ネットをよく利用しているアメリカと日本の高校生はネットの「よさ」と「怖さ・危険性」のようにポジとネガを認めている。

3 勉強の目的は、日本は「希望する仕事に就くため」がトップ

4か国とも「勉強は大切だ」と思っている。「とてもそう思う」の数値に注目すると、アメリカがトップ(58.8%)、次が日本(41.7%)、そして中国(32.4%)、韓国(28.7%)が続く。日本は勉強の大切さを認識している。

勉強の目的は4か国とも「将来希望する仕事に就くため」と「大学進学のため」が上位に来る。なかでも、日本は「将来の仕事」が6割でダントツである。

将来達成したい学歴水準で4か国は二つに分かれる。

日本と韓国は5割強が「4年生大学まで」、アメリカ、中国は4割弱が修士、博士課程の「大学院まで」を望む。アメリカと中国は高学歴志向である。日本の学歴志向の低さが気になる。

4 親子関係は4か国とも良好である。しかし、日本の親子関係は「友だち関係」になりつつある。親の期待のプレッシャーを感じるのアメリカと中国で、世話をしたいのは中国。

日本は他の国と同様に家族関係は良好である。親も自分のことを理解してくれていると思っている。そ

して家にいると落ち着き、今の家族生活に満足している。ところが、親の期待をそれほどプレッシャーに感じていない。さらに「どんなことをしてでも自分で親の世話をしたい」思う者は4割を切っている。一番数値が低い。ちなみに中国は9割弱、韓国は6割弱、アメリカは5割強である。

また親を尊敬しているかでも、日本が一番数値が低い。「とても尊敬する」ではアメリカ 70.9%、中国 59.7%、韓国 44.6%、日本 37.1%。他国と比べると、なぜ親への尊敬が低いのであろうか。

日本の親子関係は、「敬い、老後は世話をする」というタテの関係からヨコの関係の「友だち関係」になりつつあるのではなかろうか。

5 人生の目標は4か国とも「自分が幸せに感じる」と「円満な家庭を築くこと」である。なかでもアメリカは人生の目標がはっきりしている。それに比べると日本は一番はっきりしていない。

アメリカは次のことで際だっている。

「自分の趣味を生かす暮らしをする」

「社会のために役立つ生き方をする」

「お金持ちになる」

これらでダントツである。

6 社会や国に対する考え方

日本は「自国で暮らすことに満足している」(91.5%)でトップ。「内向き」志向が確認される。

その背景には、他の国に比べて「日本は貧富の差が大きい」とは思っていない、「競争が激しい社会」とも思っていない。そして外国の生活に憧れていない、ことが考えられる。また、日本は「国の発展は私個人の発展とつながっている」とも思わなく、「国のために尽くすことは大切だ」とも思わない。さらに「日本の未来は明るい」とも思っていない。

社会とのつながりが乏しく、今の身近な生活に満足する「内向き」志向になりつつある。

7 自己評価

日本の自尊感情はやはり低い。

「私は人並の能力がある」

「私は、体力には自信がある」

「私は、勉強が得意な方だ」

「自分の希望はいつか叶うと思う」

の割合が4か国で一番低い。

「自分はだめな人間だと思ふことがある」数値は72.5%でダントツ。中国(56.4%)、アメリカ(45.1%)、韓国(35.2%)。

そして、「私は将来に不安を感じている」は韓国と共に7割を超えている。

日本の高校生は「内向き」志向であることが、4か国の比較調査で明らかになった。内向き志向は必ずしも悪くはない。戦後すぐの「アメリカかぶれ」や「西洋かぶれ」は困ったものである。それでなく、自分の足下を見つめ「一隅を守る」という内向きならば歓迎である。

しかし、内実を見ると安心できる「内向き」ではない。

確かに、親子関係はうまくいっている。家庭は安心できる場所にはなっており、生活に満足している。ところが、親を尊敬はしていない。そして、将来どんなことをしてでも親の世話をしたいとは思っていない。親子関係がヨコのフラットな「友だち関係」になっているのである。

また、この「内向き」は外国へとび出さないというだけでない。自国の社会との関わりも薄いのである。自分と国の発展は関係ないし、国のために尽くそうとも思っていない。社会との関わりを避けようとしている。

さらに、自分に対する自尊感情が低い。自分に自信を持っていない。人生の目標がはっきりしていない。今勉強しているのは希望する仕事に就くためである。これ自身は前向きである。しかし、そのことが自尊感情を高めることになってないし、新しい家族関係や社会との関わりへの構築までに広がっていないのが気になる。

ところが、希望はある。今回の調査でも自然体験をした者は正義感・思いやりが生まれ、自尊感情が高まり、自立意識が高まる、というデータがある。高校生の体験活動が生き方を前向きにし、自信を持たせるのである。

日本の高校生の自然体験は二極化し始めている。これを防ぎ、多くの高校生たちに体験活動を増やすチャンスを用意する必要がある。今の「内向き」志向の高校生を「外向き」にさせるには、行動半径を広げ、多くの人との交流をする様々な体験を積み重ねなければならない。それが早道である。